

平成25年度施策マネジメントシート2(平成24年度実績の評価)

《33 農業の振興》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○米の生産目標数量の増加、東日本大震災の影響等による米価の上昇及び戸別所得補償の継続により、JA雲南販売額や農家所得が増加した。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○米の生産目標数量の増加、米価の上昇及び戸別所得補償の継続により、JA雲南販売額は目標に達していないが農家所得は目標を達成した。 ○産直会員数は目標を達成し、更に増えている。 ○農業の6次産業化の推進も所得向上につながった。(蕎麦を利用した農家レストラン、スイーツプロジェクト、スパイスプロジェクト、米粉パン等)
基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 生産基盤の整備・保全	・養賀地区農業生産法人等育成緊急整備事業や農地有効利用支援整備事業などにより、主に水稻の生産基盤の整備を図った。・H24年度から県営雲南北地区中山間地域総合整備事業が開始された。・中山間地域等直接支払制度及び農地・水保全管理支払交付金事業により、農地が保全された。・農作物獣被害防止対策事業や有害鳥獣駆除事業に継続して取り組んだ。
② 安心・安全な農産物生産の推進	・特産作物推進対策事業等により安心・安全な特産品の生産拡大に取り組み、産直会員数の増加に寄与した。・台湾へ4トンの米輸出を行うと共に市場調査を実施した。・優良雌牛の導入など和牛振興に取り組んだが、子牛価格の低迷、農家の高齢化や後継者不足に加え、飼料価格の高騰等により経営が圧迫され、農家数・飼養頭数は減少した。
③ 農業の6次産業化	・道の駅「たたらば壱番地」内の農家レストラン(蕎麦)、産直市の開業を支援し、H25年3月にオープンした。 ・農商工連携協議会と連携を図り6次産業化を進めた。
④ 担い手の育成	・雲南市担い手育成支援室(ワンストップ窓口)を中心とする市、県、JA及び農業委員会の連携により、新規就農者や集落営農組織等に対する育成、経営指導等を実施し、新たに農業生産法人が1法人、集落営農組織が1組織設立された。 ・新規就農支援事業を開始し、新規農者の育成を図った。
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○生産基盤・機械施設の整備等による生産コストの低減 ○消費者が求める、安心・安全な農畜産物の生産拡大 ○農業の多様な担い手の育成	○雲南北地区中山間地域総合整備事業等の実施により、生産基盤を整備し、生産コストの低減を図る。 ○消費者が求める安心・安全な農畜産物の生産・販売を拡大する。 ○農業の多様な担い手の育成を図る。
基本事業	① 生産基盤の整備・保全	○圃場整備や農地集積などにより、生産コストの低減を図る必要がある。 ○有害鳥獣被害防止対策や耕作放棄地の解消に取り組む必要がある。
	② 安心・安全な農産物生産の推進	○産直会員数及び販売額の増加を図る必要がある。 ○エコロジー米の生産拡大を図る必要がある。 ○繁殖基盤の拡大を図る必要がある。
	③ 農業の6次産業化	○雲南ブランドの向上による販売推進を図る必要がある。 ○農商工連携による6次産業化(スイーツ・スパイスプロジェクトなど)を推進する必要がある。 ○農特産品のPR及び販路拡大を図る必要がある。
	④ 担い手の育成	○集落営農の組織化・法人化とリーダー育成を図る必要がある。 ○認定農業者の育成・確保を図る必要がある。 ○新規就農者や企業の農業参入を促進する必要がある。
	⑤	